

第 8 回マザーレイクフォーラムびわコミ会議 結果概要

◇開催概要

日 時： 平成 30 年（2018 年）8 月 26 日（日）
 <第 1 部>10:00～12:00 <第 2 部>13:15～16:30

場 所： コラボしが 21（滋賀県大津市打出浜 2-1）

主 催： マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県

参加者： 179 名

参加団体： 90 団体

ブース出展団体数：25 団体

テーマ：『〇〇から見たびわ湖』

内 容：



【第一部】みんなつながる報告会 10:00～12:00

ナビゲータ・川本勇（ユーストン）と佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）による進行のもと、「びわコミ会議」が開幕した。



1 開会挨拶

○松沢 松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

…50年余り毎日びわ湖に出て漁をしてきたが、今まで培ってきた経験や勘がまったく使えなくなるような異変が起きている。そのようなことも踏まえながら、今日一日、皆さんと一緒に様々な問題を共有するとともに、交流の輪を広げていただきたい。



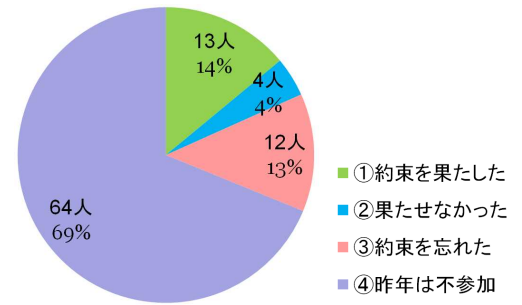
○由布 和嘉子（滋賀県副知事）

…先週副知事を拝命した。滋賀県では、多くの方々がびわ湖を守りたいという思いを持って活動に取り組んでおられると聞いて、その熱い思いと一緒に学ぶことを楽しみにしている。今日は、県内はもとより、県外や海外からもお集まりいただいた。この場が、皆様の新たな繋がりを築き、暮らしと湖の関係について議論を深める場になることを期待している。



2 昨年度のコミットメント

昨年度のびわコミ会議で各自が書いたコミットメント（約束）を、この1年間で果たすことができたかどうか会場アンケートを行ったところ、昨年度の参加者のうち約半数が「約束を果たした」と回答。また、今年初めて参加した人が参加者全体の約7割と非常に多く、世代交代や今までになかった層からの積極的な参加がうかがえた。



3 「びわ湖なう」

「びわ湖なう」と題して、参加者に配布された「びわ湖と暮らし 2018～指標でみる過去と現在～」をもとに、びわ湖の現在の状態について、特にこの1年間に特徴的なトピックについて、原田智弘（滋賀県琵琶湖保全再生課）より報告した。特に、(1)アナベナアフィニスという今までと違うアオコが発生したこと、(2)水草の発生が昨年同様少なかったこと、(3)外来魚の駆除量が減少したこと、(4)アユは昨年より持ち直したものの漁業不振が続いていることについて話題を取り上げて解説した。

また、「マザーレイク 21 計画（琵琶湖総合保全整備計画）」が策定から今年で 20 年目になること、平成 31 年度末で計画期間が終了することを受け、これまでの 20 年間で振り返り、今後の方向性について議論を深めていく必要があること、そのため、今後、マザーレイクフォーラム参加者とのワークショップや関係団体との意見交換会を開催予定であること、について説明した。

県からの報告の後、会場からも、赤野井湾のハスの状況などについて、住民からの視点で報告があった。



4 「みんなつながる報告会」～活動団体4団体からの報告～

次に、以下の4つの団体からの活動報告を行った。

① 京筏組（石井辰弥、西本和希）

“京の筏を復活させる”

② 滋賀県立びわ湖フローティングスクール（川岸哲也）

“みずうみに学んで世界の明日を拓く人 ～新学習船『うみのこ』の就航に際して～”

③ 染色工房 野の絢（大久保有花）

“びわ湖に恋してデュアルライフ ～湖北・木之本 ⇄ 東京～”

④ 淡海を守る釣り人の会（大仲正樹）

“釣り人から見たびわ湖の変化”



各団体からの報告の後、それぞれの報告内容への理解を深めるような関連データも提示しながら報告者との質疑を行い、さらに、下記の2人のコメンテーターが学術フォーラム等の立場からコメントした。

コメンテーター

- ・井手慎司 (マザーレイク 21 計画学術フォーラム委員)
- ・村上 悟 (NPO 法人碧いびわ湖)

4 「寄付金受領式」

午前中の最後は、この1年間にマザーレイクフォーラム運営委員会へご寄付をいただいた「びわカンゴルフコンペ」「びわ湖チャリティー100km 歩行大会実行委員会」「Flower Produce ichica」「チケットライフ」の4団体の代表者をお招きして、マザーレイクフォーラム運営委員会委員長の松沢松治に対し目録を贈呈いただく寄付金受領式を行った。各寄付団体より、それぞれの取組もご紹介いただいた。

さらに、この寄付金を活用させていただくことで今年誕生した「母の日父の日びわ湖の日プロジェクト」の実施報告も行った。



【昼休み（ブース展示）】 12:00~13:15

25 団体からブース出展があり、参加者は昼休みの時間を利用して各ブースを見て回りながら、思い思いに出展者との交流を深めたり、情報交換を行った。



【第二部】びわ湖のこれから話さへん？ 13:15～16:30

1 知事挨拶

○三日月大造（滋賀県知事）

…今年のコミットメントは「びわ湖は健康？」とした。
「健康しがをつくろう！」と言っているが、人だけでなく、「びわ湖は健康？」「びわ湖は元気？」ということ問い、調べ、いろんな対策を講じていく一歩を記す一年にしなければならないと思っている。一緒にがんばりましょう。



2 グループ討論

下記のテーマ別にグループに分かれて話し合いを行った。まず、話し合いの進め方や留意点等について、司会より説明を行った。続いて、各グループの担当者が紹介され、各担当者が簡潔に各グループのテーマのポイント等を説明した。



[G01] 石井辰弥（京筏組）

「文化」から見たびわ湖 ～河川と水運文化～

[G02] 川岸哲也（びわこフローティングスクール）

「うみのこ」が見続けてきたびわ湖 ～『湖の子』が語るびわ湖～

[G03] 川村千恵（長浜市移住定住促進協議会）

「移住者」から見た滋賀・びわ湖 ～移住者のホンネとは？～

[G04] 中野隆弘（びわ湖エコアイデア倶楽部）・津熊操（淡海を守る釣り人の会）

「釣り人」から見たびわ湖の変化 ～釣り人から見てびわ湖はどのように変化しているか～

[G05] 青田朋恵（滋賀県農政水産部農政課）

「世界農業遺産」からみたびわ湖 ～漁業と農業が織りなす琵琶湖システム～

[G06] 藤田知丈・佐藤祐一（マザーレイクにありがとう実行委員会）

「消費者」から見たびわ湖 ～びわ湖の保全につながる商品が選ばれるには？～

[G07] 池下香織（滋賀県琵琶湖政策課）・滝下利男（ILEC）

「世界の湖沼」から見たびわ湖 ～世界の湖沼から見たとき、びわ湖はどんな湖に見えるか～

[G08] 勝見昌和（中主漁業協同組合）・平山奈央子（滋賀県立大学）

「漁師」からみたびわ湖 ～漁師が感じるびわ湖の恵みと課題～

[G09] 山崎歩（日本野鳥の会滋賀）

「水鳥」から見たびわ湖 ～びわ湖の水鳥から見たびわ湖の今昔／びわ湖の水鳥の未来～

[G10] 前川勝人・野田晃弘（琵琶湖・淀川流域圏連携交流会）

「淀川流域各河川リーダー」から見たびわ湖 ～琵琶湖・淀川流域における治水～

[G 11] 中野栄美子（山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会）

「水源の森」から見たびわ湖 ～水をまもる、森もまもる、守るってどういうこと？～

[G 12] 川口洋美（ビーエスシーインターナショナル Tour du lac 事業部）

「外国人」から見た滋賀・びわ湖 ～びわ湖の素晴らしさをより一層体験・体感してもらうには～

[G 13] 坂本奈月・村山はづき (NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA))

「よその」から見た琵琶湖 ～外来生物を全国の学生が抜いてみた～

[G 14] 近藤康久 (チーム水宝山)

「水草」からみたびわ湖 ～水草の異常繁茂に対処するためのコミュニティーづくり～

各グループの参加希望人数を事前に把握するため、旗挙げによるグループ分けを行った。サブ会場も含め、1グループあたり5人～15人の合計14グループに別れて、それぞれ80分にわたって話し合いを行った。各グループ内のファシリテーターの進行により、参加者同士がそれぞれのテーマについて活発に議論を深めた後、最後に「キーセンテンス」をとりまとめた。



3 私のコミットメント

グループでの話し合いを終え、メイン会場に戻ってきたところで、これから1年間、自分がびわ湖のために何をするかを宣言する「私のコミットメント (=約束)」を参加者全員にフリップに記載してもらい、一斉に掲揚した。司会が数名を指名して、コミットメントを発表してもらった。



4 第二部まとめ

14 グループの代表者が順番に登壇し、グループ内での話し合いの様子と、各グループでとりまとめた「キーセンテンス」を発表した。司会者がフロアからも追加の意見を聞き出し、それぞれのテーブルで話し合われた内容を参加者全員で共有した。



○「キーセンテンス 2018」 ※ () 内は「びわ湖との約束」の各項目との対応

[G01] 融合 (2, 3, 4, 5, 7)

[G02] 『共通体験』としてのうみのこを滋賀の未来へ活用する! (1, 2, 3, 5, 6, 7)

[G03] 人と人と里山・自然 (2, 3, 4, 5, 6)

[G04] 今の琵琶湖を見つめ、なつかしい未来・豊かな生き物を若い人に引き継ぐ (1, 3, 4, 5, 6)

[G05] 世界農業遺産認定を取るゾ!! (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7)

[G06] 「びわ湖によい」を持ち寄って発表しあうプレゼン大会をするぞ (4, 5, 6)

[G07] 県民主体でびわ湖を守る!! (1, 6)

[G08] 1. 魚のすむ場所を取り戻す
2. 魚の気持ちをわかりたい
3. 漁師や釣り人の肌感覚を発信 (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7)

[G09] ・滋賀県民は自然に関心が薄い
・鳥がいる・来ることを誇りに思える地域にしたい
・鳥に気づく観察会を実施できたら… (2, 3, 4, 5, 6)

[G10] ・山を育てる
・日本海への出口を作る
・ライフスタイルを変える (3, 4, 6, 7)

- [G 11] 森を守ってきた技術・文化の引き継ぎ (1, 2, 3, 4, 5, 7)
「人__共生__森」(「__」に何を入れるべきか) …「森と共生できる人！」
- [G 12] Tranquil Landscape
Traditional Living
Touching Lake (2, 3, 5, 6)
- [G 13] 結論、「よそのものなどない」
…びわ湖はみんなのもの。びわ湖のきれいはみんなで守ろう！ (1, 2, 3, 5, 6)
- [G 14] 楽しい！ が 欲しい！ (2, 4, 5, 6)

最後に、全員で「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、司会者より閉会が告げられて、第8回びわコミ会議が終了した。(16:30)



びわ湖との約束(びわ湖版 SDGs) 2018 年度版

